

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岩手県立大学
設置者名	公立大学法人岩手県立大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
看護学部	看護学科		37		110	147	13	
社会福祉学部	社会福祉学科			56	12	105	13	
	人間福祉学科				26	119	13	
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科				17	54	13	
総合政策学部	総合政策学科				110	147	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/study/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岩手県立大学
設置者名	公立大学法人岩手県立大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/staff.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	大学共同利用機関法人役員	2023.4.1～ 2027.3.31	大学運営・教育研究
非常勤	株式会社常勤監査役	2023.4.1～ 2027.3.31	大学運営（県民意識・社会情勢・男女共同参画）
非常勤	商工会議所役員	2024.4.1～ 2028.3.31	大学運営（県内経済状況）
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岩手県立大学
設置者名	公立大学法人岩手県立大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全学部共通のシラバス作成要領を定めており、シラバス作成要領に基づき、開講される授業科目ごとに、授業担当教員がシラバスを作成している。シラバス作成要領とは、シラバスの構成、作成手順、作業内容及びスケジュール、シラバスの各項目の記載方法等を定めたものである。 授業担当教員がシラバスを作成した後は、学部等教務委員会がシラバスの内容確認を行っている。 シラバスは授業開講の前年度の1月から作成し、3月下旬頃に公開している。	
授業計画書の公表方法	大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/study/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目ごとのシラバスに下記事項を記載している。シラバスに、学修目標、成績評価の方法を明記しており、これに基づき各授業科目の単位授与を行っている。 ①講義科目名称、②英文科目名称、③開講期間、④配当年、⑤単位数、⑥科目必選区分、⑦担当教員名称、⑧所属、⑨正課学生以外の受講、⑩教育課程、⑪授業形態、⑫資格対応、⑬授業のねらい・概要、⑭キーワード《5 つまで》、⑮学修目標、⑯授業の位置付け、⑰授業の計画、⑱教科書【学生が必ず準備するもの】、⑲参考書等、⑳授業の形式、㉑成績評価の方法、㉒授業前・授業後の学修、㉓履修にあたっての留意点、㉔実務経験を生かした授業内容、㉕備考 試験・単位認定・成績評価に関するホームページアドレス https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/study/test.html	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA制度を導入しており、「岩手県立大学グレードポイントアベレージ制度運用規程」において、GPの付与、GPAの種類及び計算式、GPA対象科目、GPAの通知について定めている。 GPAの算出方法は下記のとおりである。 ① 当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としてのGPA (学期GPA) (当該学期に評価を受けたGPA対象科目で得たGP×当該科目の単位数)の合計 当該学期に評価を受けたGPA対象科目の単位数の合計	

② 在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としてのG P A
(通算G P A)

(在学中に評価を受けた全G P A対象科目で得たG P ×当該科目の単位数)の合計
在学中に評価を受けた全G P A対象科目の単位数の合計

上記算出方法により、各学期の成績評価に基づきG P Aを算出しており、学生は、各学期の成績通知日以降に、学内情報システムにおいて自分自身の学期G P Aと通算G P Aを確認することが可能である。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学 Web サイト
[https://www.iwate-
pu.ac.jp/living/gslife/study/test.html](https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/study/test.html)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【看護学部】

▼目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

看護学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、以下の能力をもてる人材の育成を図ります。

- (1) 市民としてこれからの社会の発展のために課題を見出し、問題解決のために批判的に思考し、論理的に表現できる人材（学士として普遍的・汎用的能力を備えている）
- (2) 看護職者として、ひと、文化の多様性を理解し、身体的・精神的・社会的側面から援助・支援できる人材（看護専門職としての能力を備えている）
- (3) 卒業後は看護職としての実践を積み重ね、看護学を探究し、生涯にわたり自己研鑽でき、看護実践を改善するリーダーとなり得る人材（更なる看護の発展に寄与できる能力）

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者とし、学位「学士（看護学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

DP1: 学びの主体者となり、クリティカルに思考し、論理的に表現できる。(課題発見・解決能力)

DP2: 幅広い教養を基盤として、看護を考えることができる。(幅広い教養、専門知識、社会への関心)

DP3: ひとの多様性を理解し、一人ひとりを尊重するかかわりができる。(専門知識、コミュニケーション能力)

DP4: 多様な場で状況に応じた看護の方法を考えることができる。(専門知識、社会への関心、課題発見・解決能力)

DP5: 基本的な看護技術を用いて、対象となる人へ支援することができる。(専門知識、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力)

DP6: 看護学を探究し発展させる基盤を備えている。(専門知識、課題発見・解決能力)

【社会福祉学部】

▼目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

社会福祉学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、人間の尊厳と社会的正義を尊重する倫理観をもち、幅広い教養と社会福祉学の素養をもとに、高度化・多様化した福祉的課題の発見と解決に主体的に取り組む人材の養成を図ります。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者として、学位「学士（社会福祉学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

DP1: 幅広い教養を基盤に、社会福祉学への理解を深めることができる。(幅広い教養、専門知識)

DP2: 自らの考えを的確に表現する技能を身につけ、他者と論理的に議論することができる。(コミュニケーション能力)

DP3: 社会福祉の実践を通して、多様な立場の人びとを尊重した支援ができる。(コミュニケーション能力)

DP4: 学修した知識と実社会の事象を有機的に関連づけることができる。(専門知識、社会への関心)

DP5: 社会福祉学科では、個人に対する直接的援助、個人を取り巻くコミュニティ、それらの背景にある制度・政策の3つのアプローチを統合して、福祉的課題の発見と解決に取り組むことができる。(課題発見・解決能力)

DP6: 人間福祉学科では、発達科学や心理学、人間工学から対人援助のアプローチを活かして、福祉的課題の発見と解決に応用的に取り組むことができる。(課題発見・解決能力)

【ソフトウェア情報学部】

▼目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

ソフトウェア情報学部では、コンピュータサイエンスに立脚し、利用者の立場からシステムの設計・開発を行うことのできる高度な専門性や豊かな人間性、並びに、情報技術を用いて新たな価値やサービスを創出することのできる知的探求心と想像力を備え、地域社会と連携した実学・実践の教育研究を通して「人と情報技術が調和した豊かな社会」の発展・高度化に寄与する人材の育成を図ります。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えたものとして、学位「学士（ソフトウェア情報学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

DP1: 数理・情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を理解でき、技術者が負っている責任を感じることができる。(社会への関心)

DP2: 利用者の立場からシステムへの要求を考え、数理・情報技術を用いて問題を解

決する方法を提案することができる。(課題発見・解決能力、専門知識)

DP3: 数理・情報技術とシステムに関する幅広い知識とスキルを修得し、技術者の立場からそれを活用した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。(専門知識、幅広い教養)

DP4: 様々な学びや体験の中から、自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に学習・研究を進めることができる。(自己研鑽力、幅広い教養)

DP5: 論理的な文章を書き、自らの見解を分かりやすく伝達し、他者の意見を踏まえて議論することができる。(コミュニケーション能力)

DP6: 知的探求心と想像力を持ち、絶えず発展し続ける情報技術へ柔軟に対応した専門性を自ら高めていくことができる。(自己研鑽力、専門知識)

【総合政策学部】

▼目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

総合政策学部では、学部の目的にしたがって、現代社会における多様な課題を発見し、それを科学的に分析し、総合的、学際的、政策的な視点から適切に対応方法や解決方法を提示できる能力を備え、地域・社会が必要とする人材の育成を図ります。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えたものとして、学位「学士（総合政策学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

DP1: 特定の分野に偏らない幅広い教養を身につけている。(幅広い教養)

DP2: 自分の考えを口頭や文章によつて的確に表現し、相手にわかりやすく伝えられる。(コミュニケーション能力)

DP3: 外国語による文章を理解し、基本的なコミュニケーションを取ることができる。(コミュニケーション能力)

DP4: 多様な価値観と他者の人格を尊重し、相互理解を図りながら協力し、主体的に活動できる。(コミュニケーション能力)

DP5: 現代社会における諸問題を知り、総合的、学際的な視点から背景や問題構造を説明できる。(社会への関心)

DP6: 現代社会における諸問題に関して、政策的な観点から解決策を構想できる。(社会への関心、課題発見・解決能力)

DP7: 現実の社会で生じている諸問題を見つけ、統計分析、社会調査、科学分析などを適切に用いて実践的に調査、分析、評価できる。(専門知識、課題発見・解決能力)

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html>

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岩手県立大学
設置者名	公立大学法人岩手県立大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	－
事業報告書	大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/zaimu.html
監事による監査報告（書）	同上

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：_____）	対象年度：_____）
公表方法：_____	
中長期計画（名称：第四期中期計画_____）	対象年度：令和5年度～令和10年度）
公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/info/evaluation.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/selfstudyreport.html>

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/info/accreditation.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 看護学部
教育研究上の目的 (公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/purpose.html)
(概要) 幅広い教養を基盤として、看護実践における専門的知識・技術を学び、看護の援助・支援を必要とする人々の立場に立ち、主体的な看護を展開し、更なる看護学発展のために継続的に学び続けることができる人材を育成し、岩手県に貢献すること。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html)
(概要) ▼目指す人材像 岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。 看護学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、以下の能力をもてる人材の育成を図ります。 (1) 市民としてこれからの社会の発展のために課題を見出し、問題解決のために批判的に思考し、論理的に表現できる人材（学士として普遍的・汎用的能力を備えている） (2) 看護職者として、ひと、文化の多様性を理解し、身体的・精神的・社会的側面から援助・支援できる人材（看護専門職としての能力を備えている） (3) 卒業後は看護職としての実践を積み重ね、看護学を探究し、生涯にわたり自己研鑽でき、看護実践を改善するリーダーとなり得る人材（更なる看護の発展に寄与できる能力） そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者とし、学位「学士（看護学）」を授与します。 ▼学生が卒業までに身につけるべき能力 DP1：学びの主体者となり、クリティカルに思考し、論理的に表現できる。（課題発見・解決能力） DP2：幅広い教養を基盤として、看護を考えることができる。（幅広い教養、専門知識、社会への関心） DP3：ひとの多様性を理解し、一人ひとりを尊重するかかわりができる。（専門知識、コミュニケーション能力） DP4：多様な場で状況に応じた看護の方法を考えることができる。（専門知識、社会への関心、課題発見・解決能力） DP5：基本的な看護技術を用いて、対象となる人へ支援することができる。（専門知識、コミュニケーション能力、課題発見・解決能力） DP6：看護学を探究し発展させる基盤を備えている。（専門知識、課題発見・解決能力）

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：大学 Web サイト)

<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html>

(概要)

▼学部の教育内容及び教育方法

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

看護学部の学士課程教育は、4つの科目群で構成され、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）で掲げられた能力を育成するための科目が配置されています。

CP1：「生きる」を支えることができる思考に関する科目（基礎科目、教養科目）を開講し、学士課程の看護学教育として、幅広い教養を基盤とし、確かなアカデミックスキルをディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク等を通して養います。

CP2：「生きる」を支えるための知識に関する科目（形態機能学、生化学等）、「生きる」人としての対象理解に関する科目（看護学序論、看護対人援助論等）を開講し、学習のつながりを意識した科目配置として、確かな知識、技術を実践につなげる考え方、方法を養います。

CP3：「生きる」人を支える方法に関する科目（看護展開論、クオリティマネジメント等）、「生きる」を支える看護実践に関する科目（看護援助技術論、看護学実習等）を開講し、看護職が活躍する「場」において多様な看護の方法を経験して、現実社会で看護を実践できる基盤を養います。

CP4：学びを確認するために、総合的な評価（思考力確認、臨床実習前の学修成果の確認等）を適切な時期に配置します。

CP5：「生きる」を支える学問としての看護の探究・発展に関する科目（卒業研究、看護キャリア論等）を4年次に、重点的に配置します。

いずれの科目もその関連性・順序性を重視し、教育内容・方法を工夫しています。また、学修者が自身の学びを確認できる形成的評価も適宜取り入れていきます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：大学 Web サイト)

<https://www.iwate-pu.ac.jp/examination/AdmissionPolicy.html>

(概要)

■求める学生像

岩手県立大学の全学のアドミッション・ポリシーのもと、看護学部では、次のような資質を備えた学生を求めています。

- (1) 自ら学習を計画し、継続的に学ぶことができる人（主体性）
- (2) 自分の考えを他者に伝えるように表現できる人（思考力・判断力・表現力）
- (3) 幅広く高校までの学習を身に付けている人（知識・技能）
- (4) 積極的に人と関わり、良好な関係を持つことができる人（主体性・多様性・協働性）
- (5) 看護学を探究する意欲があり、地域や地域で生活する人々へ貢献する志のある人（主体性・協働性）

■選抜の基本方針

看護学部の入学者選抜には、学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程・後期日程）があります。

(1) 一般選抜（前期日程・後期日程）では、大学入学共通テスト、小論文、面接により評価します。

大学入学共通テストでは、高等学校等において身に付けた基礎学力を評価します。

小論文では、読解力（和文・図表などを正確に読みとる能力）と論理的思考力（的確な分析にもとづいて論理的に考える能力）、文章表現力（分かりやすい表現で記載する能力）を評価します。

面接では、大学で看護学を学ぶことに対する意欲、適性、コミュニケーション能力や表

現力を総合的に評価します。

後期日程では、小論文と面接を重視します。

(2) 学校推薦型選抜では、提出書類を参考とし、基礎学力問題と面接により評価します。

基礎学力問題では、国語（古文、漢文を除く）、英語、数学Ⅰ、数学Ⅱ（全範囲）の学習範囲を中心として、文章理解・構成力、論理的思考力、数的処理能力などを測ります。

面接では、大学で看護学を学ぶことに対する意欲、適性、コミュニケーション能力や表現力、求める学生像(5)に関連して岩手県に貢献する志を総合的に評価します。

選抜区分と重視する学力の3要素との対応は上記URLを参照。

学部等名 社会福祉学部

教育研究上の目的

（公表方法：大学Webサイト

<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/purpose.html>）

（概要）

人間の尊厳と社会的正義を尊重する倫理観をもち、幅広い教養と社会福祉学の素養を基に、高度化・多様化した福祉的課題の発見と解決に主体的に取り組む人材を養成すること。さらに、広く社会教育の拠点として、地域社会に知識を還元する役割を果たすとともに、研究機関として、地域とともに福祉的課題の発見とその解決に取り組み、教育と研究を通じた地域貢献を使命とすること。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：大学Webサイト

<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html>）

（概要）

▼目指す人材像

岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。

社会福祉学部では、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、人間の尊厳と社会的正義を尊重する倫理観をもち、幅広い教養と社会福祉学の素養をもとに、高度化・多様化した福祉的課題の発見と解決に主体的に取り組む人材の養成を図ります。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えた者として、学位「学士（社会福祉学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

DP1：幅広い教養を基盤に、社会福祉学への理解を深めることができる。（幅広い教養、専門知識）

DP2：自らの考えを的確に表現する技能を身につけ、他者と論理的に議論することができる。（コミュニケーション能力）

DP3：社会福祉の実践を通して、多様な立場の人びとを尊重した支援ができる。（コミュニケーション能力）

DP4：学修した知識と実社会の事象を有機的に関連づけることができる。（専門知識、社会への関心）

DP5：社会福祉学科では、個人に対する直接的援助、個人を取り巻くコミュニティ、それらの背景にある制度・政策の3つのアプローチを統合して、福祉的課題の発見と解決に取り組むことができる。（課題発見・解決能力）

DP6：人間福祉学科では、発達科学や心理学、人間工学から対人援助のアプローチを活

かして、福祉的課題の発見と解決に応用的に取り組むことができる。（課題発見・解決能力）
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html）
（概要） ▼学部教育内容及び教育方法 岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。 基盤教育科目は、大学での学習活動の基盤を支える学び【大学で学ぶ力をつくる】、地域・国際社会においてこれから必要とされる知識・技能を学び【生きる世界を知る】、そして、幅広く豊かな教養に基づく総合的な思考力・判断力を育成する【学問を知る・使う】ことを目的とし、以下のような科目群を開講します。 CP1：基礎科目群 【大学で学ぶ力をつくる】大学での 4 年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指す科目として、「入門科目」「英語」「情報処理」「保健体育」を開講します。（DP1、DP2） CP2：教養科目群 【生きる世界を知る】それぞれの専門領域の知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指す科目として「地域教養」「国際教養」「データサイエンス教養」を開講します。（DP1、DP4、DP5、DP6） 【学問を知る・使う】それぞれの専門領域を学問全体（知の体系）の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指す科目として「基盤教養」「課題別教養」を開講します。（DP1、DP4、DP5、DP6） 社会福祉学部の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた本学部が設定する能力育成のため、学士課程 4 年間を通して学修可能な基盤教育科目と、社会福祉学部の専門教育科目でカリキュラムを編成します。本学部の専門教育科目は、社会福祉学の素養を育成することを目的とし、以下の科目群を開講します。 CP3：社会福祉の専門的学識・技能を涵養する上での土台として位置づける、「専門基礎科目」を開講します。（DP1、DP2、DP4） CP4：学部に通じた社会福祉学の主要領域に関する基幹科目Ⅰと、学科や教育系の特色も反映した基幹科目Ⅱからなる、「基幹科目」を開講します。（DP4、DP5、DP6） CP5：教育系それぞれの専門分野に関する科目として、「展開科目」を開講します。（DP3、DP4、DP5、DP6） CP6：4 年間の学修成果を統合する科目として、「発展科目」を開講します。（DP1、DP2、DP3、DP4、DP5、DP6）
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/examination/AdmissionPolicy.html）
（概要） ■求める学生像 社会福祉学部では、本学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）に定める教育を受けるに当たって、次に示すような知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。 (1) 高校卒業相当の基礎的な学力を身に付けている人 (2) 社会的な課題を多様な側面から考えることができる人 (3) 自分の考えを論理的に表現できる人 (4) 相手と交互に議論ができるコミュニケーション能力を有している人 (5) 社会福祉に対して興味・関心・情熱をもっている人

(6) 主体的に勉学に取り組むことができる人 (7) 自らの目標を設定し、その達成に向け努力している人 ■選抜の基本方針 入学志願者の個性や資質、社会福祉に対する意欲等、多様な潜在能力に配慮しながら、一般選抜（前期日程・後期日程）、総合型選抜、学校推薦型選抜など多様な選抜区分を採用しています。 一般選抜（前期日程）では、調査書によって「求める学生像」の(6)を確認するとともに、大学入学共通テストによって(1)、総合問題によって(1)(2)(3)を確認します。 一般選抜（後期日程）では、大学入学共通テストによって「求める学生像」の(1)を確認するとともに、小論文によって(2)(3)、面接によって(2)(3)(4)(5)を確認します。 総合型選抜では、一次選考の提出書類の審査によって「求める学生像」の(1)(5)(6)(7)を確認します。そして、二次選考の面接試験によって(3)(4)(7)、講義理解力試験によって(1)(2)(3)を確認します。 学校推薦型選抜では、高校からの推薦をもって「求める学生像」の(1)を有すると見なし、小論文によって (2)(3)、面接によって(2)(3)(4)(5)を確認します。 選抜区分と重視する学力の 3 要素との対応は上記 URL を参照。
--

学部等名 ソフトウェア情報学部
教育研究上の目的 （公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/purpose.html）
（概要） コンピュータサイエンスに立脚し、利用者の立場からシステムの設計・開発を行うことのできる高度な専門性や豊かな人間性、並びに、情報技術を用いて新たな価値やサービスを創出することのできる知的探求心と想像力を備え、地域社会と連携した実学・実践の教育研究を通して「人と情報技術が調和した豊かな社会」の発展・高度化に寄与する人材を育成すること。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html）
（概要） ▼目指す人材像 岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材を輩出することを目指します。 ソフトウェア情報学部では、コンピュータサイエンスに立脚し、利用者の立場からシステムの設計・開発を行うことのできる高度な専門性や豊かな人間性、並びに、情報技術を用いて新たな価値やサービスを創出することのできる知的探求心と想像力を備え、地域社会と連携した実学・実践の教育研究を通して「人と情報技術が調和した豊かな社会」の発展・高度化に寄与する人材の育成を図ります。 そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えたものとして、学位「学士（ソフトウェア情報学）」を授与します。 ▼学生が卒業までに身につけるべき能力 DP1：数理・情報技術の分野に興味を持ち、人間や社会に及ぼす影響や効果を理解でき、技術者が負っている責任を感じることができる。（社会への関心） DP2：利用者の立場からシステムへの要求を考え、数理・情報技術を用いて問題を解決

する方法を提案することができる。（課題発見・解決能力、専門知識）

DP3: 数理・情報技術とシステムに関する幅広い知識とスキルを修得し、技術者の立場からそれを活用した仕組みを企画・設計・開発・保守・運用することができる。（専門知識、幅広い教養）

DP4: 様々な学びや体験の中から、自分の能力・適性を把握し、自主的・計画的・継続的に学習・研究を進めることができる。（自己研鑽力、幅広い教養）

DP5: 論理的な文章を書き、自らの見解を分かりやすく伝達し、他者の意見を踏まえて議論することができる。（コミュニケーション能力）

DP6: 知的探求心と想像力を持ち、絶えず発展し続ける情報技術へ柔軟に対応した専門性を自ら高めていくことができる。（自己研鑽力、専門知識）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：大学 Web サイト

<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html>）

（概要）

▼学部の教育内容及び教育方法

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

基盤教育科目は、大学での学習活動の基盤を支える学び【大学で学ぶ力をつくる】、地域・国際社会においてこれから必要とされる知識・技能を学び【生きる世界を知る】、そして、幅広く豊かな教養に基づく総合的な思考力・判断力を育成する【学問を知る・使う】ことを目的とし、以下のような科目群を開講します。

CP1: 基礎科目群

【大学で学ぶ力をつくる】大学での 4 年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指す科目として、「入門科目」「英語」「情報処理」「保健体育」を開講します。（DP4、DP5）

CP2: 教養科目群

【生きる世界を知る】それぞれの専門領域の知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指す科目として「地域教養」「国際教養」「データサイエンス教養」を開講します。（DP1）

【学問を知る・使う】それぞれの専門領域を学問全体（知の体系）の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指す科目として「基盤教養」「課題別教養」を開講します。（DP2）

ソフトウェア情報学部の専門教育科目では、ソフトウェア情報学の知識とスキルが身につく多彩な専門科目を体系的に学修するため、専門基礎科目、専門共通科目、関連科目、展開科目、キャリア学習科目、研究科目を階層的に編成し、下記 CP3～CP8 に示す方針で専門教育科目を配置しています。また、絶えず発展し続ける情報技術へ柔軟に対応した専門分野における人材を育成するため、複数のコースを設け、コース毎の学修に繋がる科目を配置します。そして、学部で学修した専門分野の知識とスキルをより発展させることができるよう、学部と研究科博士前期課程（修士課程）の接続を円滑にする一貫した教育カリキュラムを編成します。

これらの専門教育科目においては、個々の学生が各種の課題解決に向けて自らシステムの設定や環境構築を行い、必要なプログラムを開発できる情報端末を活用した授業を開講します。さらに、複数の情報端末を協調させて能動的な学習等を効果的に進めることができる IT 環境を利用した授業を開講します。

CP3: 初年次教育の充実を図り、専門への導入を円滑にするため、「専門基礎科目」を開講します。（DP3）

CP4: ソフトウェア情報学における幅広い専門知識を身につけるため、ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎科目で構成される「専門共通科目」を開講します。（DP3、DP6）

CP5: 人間や社会と情報技術を結びつけるための科目で構成される「関連科目」を開講します。(DP1、DP2、DP3、DP5) CP6: 実践的なスキルを向上させるための多様な科目で構成される「展開科目」を開講します。(DP2、DP3、DP6) CP7: 自己を磨き自らの進む進路を見つける科目と、チームで問題発見・解決する能力を養うための科目で構成される「キャリア学習科目」を開講します。(DP2、DP4、DP5、DP6) CP8: 実践力養成のために少人数ゼミによる教育を重視した「研究科目」を開講します。(DP3、DP4、DP5、DP6)
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/examination/AdmissionPolicy.html)
(概要) ■求める学生像 ソフトウェア情報学部では、本学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）に定める教育を受けるに当たって、コンピュータやソフトウェア、情報に強い関心や興味を持っており、かつ、次に示すような知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めています。 (1) 人間、社会に対して強い関心や興味がある人 (2) 将来、社会で役に立ちたいという夢や希望を持っている人 (3) よく観察し、筋道を立てて考え、自分の考えを人に伝えることができる人 (4) 高校教育課程で定められた基礎学力を身に付けており、得意科目や得意分野、特技を持っている人 ■選抜の基本方針 ソフトウェア情報学部の入学選抜には、一般選抜（前期日程、中期日程）、総合型選抜、学校推薦型選抜（一般、専門高校・総合学科）等の区分があり、その基本方針は以下のとおりです。 (1) 一般選抜では、大学入学共通テストと個別学力検査により評価を行います。 (2) 総合型選抜では、提出書類と面接により評価を行います。 (3) 学校推薦型選抜等では、総合判定資料（書類、面接）と基礎学力問題により評価を行います。 選抜区分と重視する学力の 3 要素との対応は上記 URL を参照。

学部等名 総合政策学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/purpose.html)
(概要) 現代社会は複雑・高度化し、人々の価値観は多様化しており、私たちが直面する種々様々な諸問題は従来型の縦制的手法や解決策をもってしては的確な解決策を見出すことは困難である。これらの諸問題に対し、文と理にとらわれず、多面的で総合的な視点を備えた新しい手法や長期的な展望を得る知の創出を行い、それらを基に、柔軟な解決策を見出すために、総合的な対応を行う見識を持った地域・社会に貢献する有為な人材を養成すること。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法: 大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html)
(概要) ▼目指す人材像 岩手県立大学の学士課程では、幅広い教養と国際感覚を備え、知識を柔軟かつ創造的に活用して主体的に行動できる人間を育成します。県立大学の強みを生かし、地域と連携した実践的教育を通して、産業経済、福祉医療、地域政策等の分野において専門知識を活用して課題解決に取り組み、豊かで活力ある社会の形成に貢献できる人材

を輩出することを目指します。

総合政策学部では、学部の目的にしたがって、現代社会における多様な課題を発見し、それを科学的に分析し、総合的、学際的、政策的な視点から適切に対応方法や解決方法を提示できる能力を備え、地域・社会が必要とする人材の育成を図ります。

そして、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し、かつ、単位を修得した学生を、次に掲げる「学生が卒業までに身につけるべき能力」を備えたものとして、学位「学士（総合政策学）」を授与します。

▼学生が卒業までに身につけるべき能力

DP1: 特定の分野に偏らない幅広い教養を身につけている。（幅広い教養）

DP2: 自分の考えを口頭や文章によつて的確に表現し、相手にわかりやすく伝えられる。（コミュニケーション能力）

DP3: 外国語による文章を理解し、基本的なコミュニケーションを取ることができる。（コミュニケーション能力）

DP4: 多様な価値観と他者の人格を尊重し、相互理解を図りながら協力し、主体的に活動できる。（コミュニケーション能力）

DP5: 現代社会における諸問題を知り、総合的、学際的な視点から背景や問題構造を説明できる。（社会への関心）

DP6: 現代社会における諸問題に関して、政策的な観点から解決策を構想できる。（社会への関心、課題発見・解決能力）

DP7: 現実の社会で生じている諸問題を見つけ、統計分析、社会調査、科学分析などを適切に用いて実践的に調査、分析、評価できる。（専門知識、課題発見・解決能力）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：大学 Web サイト

<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/dc-policy-top.html>）

（概要）

▼学部の教育内容及び教育方法

岩手県立大学の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げた共通の柱及び学部ごとに設定する能力の育成のため、基盤教育科目と専門教育科目を中心としたカリキュラムを編成・実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

基盤教育科目は、大学での学習活動の基盤を支える学び【大学で学ぶ力をつくる】、地域・国際社会においてこれから必要とされる知識・技能を学び【生きる世界を知る】、そして、幅広く豊かな教養に基づく総合的な思考力・判断力を育成する【学問を知る・使う】ことを目的とし、以下のような科目群を開講します。

CP1: 基礎科目群

【大学で学ぶ力をつくる】大学での 4 年間の学び、また実社会に活用できるスキルの獲得と資質・能力・身体の育成を目指す科目として、「入門科目」「英語」「情報処理」「保健体育」を開講します。（DP1, DP2, DP3, DP4）

CP2: 教養科目群

【生きる世界を知る】それぞれの専門領域の知識・技術を活用する場としての「世界」を知ることを目指す科目として「地域教養」「国際教養」「データサイエンス教養」を開講します。（DP1, DP3）

【学問を知る・使う】それぞれの専門領域を学問全体（知の体系）の中に位置づけ、課題解決のための、他学問領域の「知」を活用できることを目指す科目として「基盤教養」「課題別教養」を開講します。（DP1）

「専門教育科目」は、「基盤教育科目」を土台とし、また、その内容と連携を取りながら、各学部において開講します。

総合政策学部では、地域・社会の課題に主体的に対応できる人材育成のため、学生が政策的素養を形成する共通の知識を修得したうえで、社会を構成する公共分野、民間分野、市民分野に対応する専門性を獲得できるように、「法律・行政コース」、「経済・経営コ

ース」、「地域社会・環境コース」の 3 コースを置き、学生を 3 年次より配属します。あわせて、コース間の連関に配慮した教育を行います。本学部の学士課程教育では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を身につけるために、基盤教育と連携して、以下のような科目群・科目を開講します。

CP3: 他者との協力的、主体的活動・学修能力を身につけるため、能動的学修方法を取り入れた少人数教育による「演習科目」と「実習科目」、さらには「キャリア教育科目」を開講します。(DP2、DP4)

CP4: 現代社会における諸問題・課題に対する理解を深め、解決の指針を得るため、学部共通の「政策コア科目」、「コース基幹科目」及び「展開科目」等の講義科目を開講します。(DP1、DP5、DP6、)

CP5: 科学的分析手法を体系的、実践的に修得するため、社会調査、統計等の基礎知識を身につける「調査分析科目」と、応用としての「実習科目」を開講します。(DP7、DP2)

CP6: 講義科目などで修得した専門的視点から解決策を導き出して、自分の考えを的確に表現するため「卒業論文・研究」を開講します。(DP5、DP6、DP7)

入学者の受入れに関する方針
 (公表方法: 大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/examination/AdmissionPolicy.html>)

(概要)

■求める学生像

総合政策学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）に定める教育を受けるに当たって、次に示すような知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

(1) 現代社会における多様な事象を把握するための前提知識として、高校卒業相当の基礎的かつ全般的な学習内容を身に付けている人

特に以下の点を重視する。

- ・読解力（英語を含む）
- ・文章作成能力
- ・基礎的な数学的思考能力

(2) 社会や自然環境等に広く関心を持ち、それらの理解に必要な情報を収集できる。さらに収集した情報を適切に関連付けながら問題を発見し、その解決策を導くための論理的思考能力を身に付けている人

(3) 自分の考えを適切に表現し、積極的に他者の考えを理解しようとする人

※学力の 3 要素の対応として(1)は知識・技能、(2)は思考力・判断力・表現力、(3)は主体性・多様性・協働性である。

■選抜の基本方針

総合政策学部では、「求める学生像」に合致する学生を選抜するために、次の考え方に基づく入学選抜を行います。求める学生像と選抜方法との対応は上記 URL を参照。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法: 大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/staff.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3 人	—					3 人
看護学部	—	9 人	15 人	9 人	10 人	8 人	51 人

社会福祉学部	－	7人	16人	6人	5人	0人	34人
ソフトウェア情報学部	－	13人	21人	14人	1人	0人	49人
総合政策学部	－	18人	14人	7人	0人	0人	39人
高等教育推進センター	－	5人	9人	4人	0人	0人	18人
合計	－	52人	75人	40人	16人	8人	194人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			85人				85人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学 Web サイト http://souran.iwate-pu.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
年2回程度の全学的なセミナー及び学部ごとの研修会等の開催、他大学等が実施する研修会等への参加に関する支援、授業に関する学生アンケート調査を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
看護学部	90人	90人	100.0%	380人	370人	97.4%	10人	4人
社会福祉学部	90人	93人	103.3%	380人	425人	111.8%	10人	9人
ソフトウェア 情報学部	160人	169人	105.6%	660人	704人	106.7%	10人	10人
総合政策学部	100人	107人	107.0%	420人	460人	109.5%	10人	9人
合計	440人	459人	104.3%	1,840人	1,959人	106.5%	40人	32人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
看護学部	87人 (100%)	2人 (2.3%)	84人 (96.6%)	1人 (1.1%)
社会福祉学部	101人 (100%)	5人 (5.0%)	89人 (88.1%)	7人 (6.9%)
ソフトウェア情 報学部	147人 (100%)	20人 (13.6%)	117人 (79.6%)	10人 (6.8%)
総合政策学部	112人 (100%)	5人 (4.5%)	98人 (87.5%)	9人 (8.0%)
合計	447人 (100%)	32人 (7.2%)	388人 (86.8%)	27人 (6.0%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項） 大学 Web サイト (https://www.iwate-pu.ac.jp/career/syusyokusaki.html) に掲載。				

(備考) 大学 Web サイトに掲載している卒業者数等の数値は次のとおりであり、本申請書とは一致しない。 ・ 卒業者数及び就職者数は、令和 8 年 3 月卒業生の数で、秋卒業者は含まない。 ・ 進学者数は、専門学校進学者を含む。 ・ その他の数には、就職未内定者及び専門学校進学者を含まない。
--

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
看護学部	94 人 (100%)	86 人 (91.5%)	5 人 (5.3%)	3 人 (3.2%)	0 人 (0%)
社会福祉学部	106 人 (100%)	94 人 (88.7%)	7 人 (6.6%)	5 人 (4.7%)	0 人 (0%)
ソフトウェア 情報学部	172 人 (100%)	131 人 (76.2%)	25 人 (14.5%)	15 人 (8.7%)	1 人 (0.6%)
総合政策学部	120 人 (100%)	106 人 (88.3%)	11 人 (9.2%)	2 人 (1.7%)	1 人 (0.8%)
合計	492 人 (100%)	417 人 (84.8%)	48 人 (9.8%)	25 人 (5.1%)	2 人 (0.4%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全学部共通のシラバス作成要領を定めており、シラバス作成要領に基づき、開講される授業科目ごとに、授業担当教員がシラバスを作成している。シラバス作成要領とは、シラバスの構成、作成手順、作業内容及びスケジュール、シラバスの各項目の記載方法等を定めたものである。 授業担当教員がシラバスを作成した後は、学部等教務委員会がシラバスの内容確認を行っている。シラバスは授業開講の前年度の 1 月から作成し、3 月下旬頃に公開している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業科目ごとのシラバスに下記事項を記載している。シラバスに、学修目標、成績評価の方法を明記しており、これに基づき各授業科目の単位授与を行っている。 ①講義科目名称、②英文科目名称、③開講期間、④配当年、⑤単位数、⑥科目必選区分、⑦担当教員、⑧所属、⑨正課学生以外の受講、⑩教育課程、⑪授業形態、⑫資格対応、⑬授業のねらい・概要、⑭キーワード《5 つまで》、⑮学修目標、⑯授業の位置付け、⑰授業の計画、⑱教科書【学生が必ず準備するもの】、⑲参考書等、⑳授業の形式、㉑成績評価の方法、㉒授業前・授業後の学修、㉓履修にあたっての留意点、㉔実務経験を生かした授業内容、㉕備考 試験・単位認定・成績評価に関するホームページアドレス https://www.iwate-pu.ac.jp/living/gslife/study/test.html	学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
--	-----	-----	----------------------	-------------------------	-----------------------

看護学部	看護学科	125 単位	有・無	欄外に記載のとおり (※1)
社会福祉学部	社会福祉学科	125 単位	有・無	欄外に記載のとおり (※2)
	人間福祉学科	125 単位	有・無	
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科	127 単位	有・無	欄外に記載のとおり (※3)
総合政策学部	総合政策学科	130 単位	有・無	欄外に記載のとおり (※4)
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法: 大学 Web サイト https://www.iwate-pu.ac.jp/information/info/questionnaire.html		

- ※1 自由聴講科目及び学部が別に定める一部の科目を除き、54 単位。編入学生の上限は設けない。
- ※2 学部が定める一部の科目を除き、1、2 年次生は 50 単位、3、4 年次生は 56 単位。編入学生の上限は設けない。
- ※3 自由聴講科目及び学部が別に定める一部の科目を除き 48 単位。ただし、2 年次生以上で、かつ前年度における通算 GPA が 3.0 以上、又は編入学生の場合は 56 単位。
- ※4 自由聴講科目及び学部で定める一部の科目を除き 44 単位。ただし、前学期の学期 GPA が 3.2 以上の場合は 60 単位。編入学生は、自由聴講科目及び学部で定める一部の科目を除き 49 単位。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/information/edu-information/facilities.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	535,800 円	(県内の住民) 225,600 円 (その他の住民) 338,400 円	18,000 円	※その他に記載の金額は保険 (4 年間)に係る費用 ※入学時には、後援会費 (50,000 円)、学生会費 (12,000 円)、同窓会費 (5,000 円)の納入も必要
社会福祉学部	社会福祉学科			4,080 円	
	人間福祉学科				
ソフトウェア情報学部	ソフトウェア情報学科			4,010 円	
総合政策学部	総合政策学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

(1) 経済的支援

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀と認められる学生に対し、申請に基づき授業料の免除を実施するほか、納付方法の特例 (分割・延納) も実施している。

また、本学独自の奨学金制度 (岩手県立大学学業奨励金) を設け、学業成績が優秀な学生に対し無利子の奨学金を貸与している。卒業時に学業成績が特に優秀な場合や岩手県内に主たる事業所を置く企業等に所定年数勤務する等の条件を満たした場合は、申請に基づ

き返還を免除（全部又は一部）することがある。 (2) 特別支援による合理的配慮 学生に関する相談を受ける部署として学生サポートサロンが設置されており、修学において学生の個別事情に配慮した対応が必要と判断された場合、特別支援として各学部教員に対して配慮の協力依頼を行っている。このほか、修学に関わる悩みが聞かれた場合は相談の範疇で対応している。 (3) 修学状況の保証人通知制度 学生への修学指導の充実を目的として、事務局と各学部と連携し、履修未登録・欠席過多等の学生に対する「修学状況に係る保証人通知」制度を設けている。 また、年2回（入学年次生は1回）全学生の保証人に対し、直前期までの単位修得通知書を送付している。 (4) ソーシャルワーカーによる相談 経済不安等の生活課題を抱える学生を対象に、社会福祉士の資格を持つ学生支援コーディネーターが相談に応じる。また、学外ソーシャルワーカーの相談窓口も設置している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 （概要） (1) 就職支援 全学の就職支援を行う「キャリアセンター」と学部特性に合わせて支援を行う「学部就職委員会」等が連携しながら、就職ガイダンス、企業説明会、公務員試験対策、個別相談等を実施している。 (2) キャリア形成支援 低学年次からのキャリア意識の醸成を目的として、合同企業等セミナーや各種ガイダンス等の開催、インターンシップへの参加推奨等を行っている。 (3) 他グループとの共同（学生サポートサロン） 学生との相談で、進路に関わる悩みが聞かれた場合、必要に応じてキャリアセンターにつなぐ等している。つないだ後も面接を継続しながらメンタル面のフォローをしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 （概要） (1) 健康管理（健康サポートセンター） 学生の心身にわたる健康管理を目的に、医師（内科・精神科）、保健師、看護師を配置している。 (2) 学生相談（学生サポートサロン） メンタル面の悩みを抱えている学生に対しては、カウンセリングの対応をしている。 (3) 心理相談（学生サポートサロン） 公認心理師・臨床心理士の資格を有する専任カウンセラー、及び教員の相談員を配置して悩みや不安を抱える等の学生の相談に応じている。 (4) 障がい学生支援・生活に関する困りごと相談（学生サポートサロン） 障がいや疾患を抱える学生に対する合理的配慮の提供、及び修学や生活に関する困りごとを抱える学生の支援を目的に、学生支援コーディネーター及び障がい学生支援スタッフを配置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学 Web サイト
<https://www.iwate-pu.ac.jp/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。